京城新報

●新聞料　▲一部二錢▲一ヶ月前金壹圓▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲廣告料　▲五號活字一行金壹錢▲二號活字一行金四拾錢▲同四字詰一行金四拾五錢

●陰曆　二月廿九日

發行編輯兼印刷人　山下亮
京城西署西小門通
發所行　京城新報社
電話六六三番

韓國に働きたる人物其四

（故星亭）　放浪子

▲怪傑星亭も井上馨の幕僚として、韓國法都に開たる時代は、所謂大飛躍せんか爲に輝く氣を休めたる觀ありき、

▲世人は渠が横濱税關長時代に、日本の廟堂を常に震慄せしめた、英國公使パークスを罵倒し、さしも傲岸なるパークスも避易した棟手を追想して、漢城政界に花々しき活動を試らるべしと期待したりき、何ぞ圖らむ、渠は沈默不動殆ど韓國に靜養する爲に來りし觀ありき、

▲惟ふに井上馨の幕僚として　漢城に動くには其人格餘りに大なりき、却て小手先の利く仁尾惟茂や、齊藤修一郎の方が適當なりき、

▲渠が短き漢城の生活に於て見るべきものは、時々公使館に出入することゝ、齊藤修一郎の家で樂毒を鬪せることなりき、其樂甚も余り上手にあらざるも、活潑の指し振りは矢張星亭的なりき、

▲要するに星亭が沈默して何事もなさゞりしは、幕僚として働くは渠の長所にあらざりしならむ、渠は何處も頭領として子分の献策を入れて陣頭に起て活動するが長所なり、それを井上の如き喧ましや屋の幕僚となる、其光彩を發輝せざる無理ならざりき、

▲渠は能く自分の長所を知る、見よ渠が米國に公使たるや館内深く潛で讀書に耽りたりと、公使の知きは彼の長所にあらず、渠は尤も政黨主領に適せりき、後年渠が日本に於ける偉大なる人物となりしは、政黨主領として怪腕を揮ひしに因る、當時の渠は反對黨に對する、鏡袖一度觸るれば微塵たるの慨ありき、

▲渠は韓國に靜養したる時に於ても、其親分的氣象は發輝せられたりき、一見傲慢なるが如き渠の矯居は常に訪客多かりき、親しく渠に接したるものは、彼の傲慢らしき顔は變じて柔和となり、其破顔一笑するや目元に愛嬌あり、何となく人を引付るの力ありき、歟として大に恐るべきもの、味方としては最も親みとするに足る、

▲渠が在韓中政治上の論議を試られたるは恐らく王妃事件の時の外多くなからむ、渠は彼擧を以て下手芝居なりと評せりき、

▲渠は幕僚として韓國に來りて、何事をなし得ざるを知りつゝ何故に來りしかと云ふ者あり、そは渠と井上との關係を知らざるに因る、渠は井上に恩を受く、之に加るに恩人陸奥宗光の勸誘あり、之れ渠が餘儀なく來りし所以也、

▲若し渠に今日の統監の如き權力を與れば目覺しき働をなしたるならむ、勞動非にして英雄故星亭は追慕せらる、

●韓國濟經月報（續）

第一　貨物の集散

當十月中各地方に於ける貨物集散の狀況左の如し

一、京城　開城

京城　冬季に向ひたると地方の暴徒稍々鎮靜に歸したるとにより冬物の賣行は活氣を示し且の收穫期なるを以て蕎麥、大豆の出廻り多少ありたり

開城　米穀は地方騷擾の爲め出廻り捗々しからず從て市價は昂騰せり、輸入品は季節柄好況にして約五萬圓に達し就中上海綿は數百個の入荷あり綿絲、綿布、雜貨類之れに次げり地方への再輸出は暴徒各所に出沒せしと、一方農繁期なるに依り中旬頃迄は非常の不況なりしが下旬に至り稍々賣行好況にして當用品のみにても約三萬圓に上れり

二、海州　安州　江界

海州　地方暴徒の爲め穀類の出廻り少なく從て其の取引不活潑なり、木綿、石油等の商品は賣行良好にして之れを前月に比すれば稍々活氣の呈せり

安州　前月來沈靜なりし商況は當月に至り稍々活氣を呈せり

江界　當月初旬に至り安東縣方面より種々の商品は賣行良好にして之れを前月に比すれば稍々活氣の呈せり

三、春川　榮山浦　海南　木浦　忠州　公州　筏橋浦　濟州島

春川　當月に至り暴徒稍々平穩に歸せんとする模樣なるに依り避難民等追々歸來し殊に秋作豐かなりしかば前月に比し人氣大に恢復せり然れども未だ全く常態に復せざるを以て當地特産物たる木材、薪炭の外少量なる細布の販賣あるのみ

忠州　地方暴徒は前月已來少しく沈靜に歸したるも市場稍々活氣を示したるも一般商人は貨物輸入の途絶へて久しく、殆んど持越の品のみにて花客の需要滿す事能はざりしに中旬再び近傍に出沒し剩さへ市場來襲の風説起りしかば少しく恢復せし市場再び沈靜となれり

公州　當月上旬は市況沈靜を極めたりしが中旬頃に至り漸次活氣を呈し葉煙草、明太魚、米、麥、大豆、小豆、其他白苧、棗、柿等市毎に增加せり

筏橋浦　當月は農繁季なるを以て出市貨物減少し殊に下旬に至り明太魚の如きは殆んど出市を絶つに至れり、麺子は酒造季節に至れるを以て可なりの出荷ありたり（未完）

●延安地方貿易概況（續）

（仁川税關調）

品名	外國品數量	賣價
酒金巾	一反四十碼（三ヒ印）	六、二〇〇
紡績糸	一包十六手	七、〇〇〇
同縫糸	四、五〇〇	三、三〇〇
マツチ	一包三十二入	三、〇〇〇
ハーロー	一個	〇、二五
砂糖	一斤（白）	〇、三五
石油	一箱（鍋印）	一、五〇〇
支那鹽	一打	三、〇〇〇
	五升（韓一斗）	三、〇〇〇
	一斗（韓桝）	一、二五

一、貨物の運搬及交通

延安郡一帶及白川郡西南の一部は延安を去る南方一里餘の羅津浦を以て貨物終出入唯一の喉頸とし郡内海濱に面せる個所多きも延安の如く物貨の集散する場所なく且つ潮流滿干の差著しく羅津浦に次ぐ場所なし然りと雖も羅津浦も村落に到るには漢口より二里以上灣曲したる河川に因り滿潮に上り干潮に下る等潮流を利用し且つ大潮時にあらざれば到達すると能はざる等頗る不便の個所たり海上交通の不便なるを以て知るべきのみ以上述べた移出入貨物は凡て朝鮮固有の帆船及韓人所有の日本形帆船に據る此の如き交通不便の河川に潮流を利用して一旦羅津浦に陸揚せられ牛馬背に依り運搬せられ又た郡内一帶及白川郡西南部面の物産に牛馬背を借りて羅津浦を經て仁川に輸送せらる其輸送途中は南大江を經て漢江に入り江華島を廻るを以て風向及潮流良好の際は羅津浦を發して二日目に仁川に入港するを得るも平素四五日を要し延着の場合は十數日を費すのみならず毎年輸送船數隻漢口及南大江の砂礫に於て破船し貨主の損害を蒙るもの少からず僅に吃水五尺の小蒸汽船さへも潮流に依らざれば漢江及南大江を自由に航行する能はざるを以て到底積量の大なる滿船を以て輸送の便を計らんとするも之れ全く不可能に終結し、二月四日より緯論に移りしが論事は先づ論告して曰く、

「ステッセル將軍は旅順を堡壘の地と頼言しながら何の面目あり要塞を開城したるぞ。彼は何が爲に勇敢なる防禦を以て全世界を驚かしたる名譽ある要塞兵に強ゆるに降參の恥辱を以てしたるぞ。本檢事はステッセル、フォーク、レイスの三將軍が職務に對する義務の觀念と克己の精神とを缺ぎしことを斷言す、彼等は實に祖國に對する義務を知らず、歴史に對する面目を辨へざる者なり。歴史は吾人に示すに、古來の英雄が如何に斯る場合に處したるかを以てするにあらずや」。

と述べ、ゼノア、ブレウナ、キンブルン等の例を引きて、暗にステッセルが自殺の勇氣なかりしことを諷し、被告各自の罪に論及してフォーク將軍の罪は防禦の方法を十分に盡さず、敵と未だ銃劍を交へざるに早く、ステッセルより退却の命を得んが爲に、事實を僞りて陣地の危急、彈藥の全滅を打電したるにありと述べ、次にステッセルの罪に移りて、彼はクロパトキン將軍より要塞の指揮をスミルノフに讓れとの命令ありしにも拘はらず、之を實行せざりしと言ひ且ステッセルとスミルノフとの衝突を說き、此の點に於ては兩者に罪ありと述べ、更にレイスの罪に及びて曰く、

「開城談判使節の派遣は大獅子窩の陷落以前に在りたり、假令此の點に於て爭ふべき所ありとするも乃木將軍の書簡（開城勸告）が大獅子窩の陷落前に送られしことは疑ふ可からざる事實なり。十二月二十日（一月二日）の朝乃木將軍よりの返書に接してステッセル將軍は談判の全權をレイス將軍に委ね他の委員には何等の指令も與へざりき。全權委員等は皆フォーク將軍の營舍より水師營に向つて出發したり。フォーク將軍は此の事實を否定すと雖も、證人の證言は彼れの陳述に反對せり。水師營に於て開城條件の設議に費されし時間は四十五分間なりき。此の時間の餘りに僅少なりしは、開城の事は既に其の以前に解決せられありしを以てなりレイス將軍は此の時間の短少に對して別に反對せざりき。又ヨリ多く名譽の條件を獲得せんとの願望も無かりき。此の事は、レイスが其の當時ゴロワン大尉の抗議に對して『我等何をか爲さんや、彼等は戰勝者なればなり』と言ひし言葉に徵しても明かなり」。

●東洋拓殖の利益

東洋拓殖會社營業の收入は初年度分田地六萬圓二千五百町歩の内一町歩二十圓宛及び借入地五百町歩の收入に用水三萬圓二千五百町歩一町歩十圓宛及借入地五百町歩の收入以上合計九萬圓二年度分田入萬一千圓殺其他の收穫二町歩二十七圓宛三千町歩用水三萬六千圓大豆及び小麥一町十二圓宛三千町歩未開墾地六萬三千内大麥一千五百町歩以上合計十八萬圓なり而して牧畜及び漁業は農業の副業とし又漁業者には別に移住費の支給を爲さゞるべしと云ふ

小說　紋のみだれ

（百六）　永井櫻國

「イヤ、早速承知して下さつて、私も口の利き効があつて滿足します。斯う事が極つた上は、善は急げの譬もあり升から今晩にも早速婚禮の式を濟して、その上で明日にも商業の資本は出させますから、必ず心配御無用です。又月々の手當も間違なく送らせますから安心して下さい、イヤれ邪魔を爲ました、一刻も早く歸つて安心爲せませう。

起たんとするを、

「些と待て下さい、苟にも自分の相續人を嫁に遣つて了うのですから、謂はゞ盲目が杖を取られたも同じ事です。極めるだけの事は今日固く極めて置かないと、後日になつて左や右く云ふのは、互に氣地宜くないものです、致しますと、商賣の資本は婚禮の式が濟み次第に渡して下れるやうにた取計が願ひたうございます、して又月々の手當も毎月二千五日に渡して下れますやうに私は願ひます、それから又萬一私が病氣なんか、不時の災難でも有つた節には能るだけの事は爲て下れますやうに、これは私から特別にた願ひ申して置きます。」

松岡は微笑を漏ら。

「病氣や不時の災難でもあつた節は、他人でも助け合うのですもの、況してや親子で、決して御心配には及びません、私から能く話して置きます、それから商賣の資本はれ辭通り婚禮の式が濟むとた渡しますし、月々の手當も二十五日に渡すやうに話して置きます。」

「若も月々の手當を下れないやうな事になりますと、私は食べすに居なきやあならない事になりますから、その時は娘を連れて歸つて又寄席にでも出さなきやあなりませんゆゑ、その邊も能く山田へ話しなすつて置て下さい。」

「宜しい、萬事承知しました、ろれでは歸つて委細の相談した上で、重て伺う事に致します。」

と、挨拶して歸つて往つた、

と、間もなく清糸が、大川の代理と言ふ四十格好な男と同道して來て、緣談を大川に斷つた事、その結果として資本にと貸與へた三百圓の金子の代りに、店に陳列べてある物品を殘らず受取るべきため、此人を同道して來た旨を告げて、大川の代理を紹介せる、勇五郎は既に覺悟の上にて何一品殘らずその人に渡して、茲に大川との關係は一段落となつた。」

「然う言ふやうな事に極めて了ひましたから、いづれ彼女が伺つて種々御相談は爲るでせうが、設令山田の家へ遣りましても、これまで通り何彼の御面倒を、宜しくれ願ひ申します。」

清糸は内心不滿に堪られぬけれど、さあらぬ體で、

「兒さで出來ては爲方がありませんわね、まあ〳〵無事に納つてれ目出度うございます。」

と、挨拶さへも匆々に立歸つて了つた、清之助は、ろの日限り斷然廢業して、その翌日婚禮の式を擧げて、書家山田曉堂の夫人とはなつたのである、新婚新郎が結婚後の夢や如何ならん、

明治二十年創立
日本火災保險業の開祖
資本金壹千萬圓
東京火災海上運送保險會社
社員駐在所京城本町二丁目

●ステツセル裁判（三）

▲檢事の論告

▲檢事の論告は一月二十九日を以て審問を

犧牲 スチーブンス氏

▲畏友スチーブンス氏は遂に落命被致候日韓問題の犧牲として落命被致候余は衷心より同氏の變死を悲しみ謹みて吊意を表する者に御座候

▲人友の爲に命を捨つ此より大なる愛はなしとユダヤの聖者は被申候余も以てすればス氏の死は帝國及伊藤公に對して氏が有せし深大なる愛の表白と解釋すべきものと被存候

▲悲報一度傳はるや全世界は大に驚愕したる者の如くに御座候其驚愕の程度は衞王の變死以上なりしと被存候韓人が米國を舞臺として著名の米人を暗殺するが如き大膽なる兇行を敢てすべしとは何人も曾て想像にだにせしことと有ざる間敷從て此事ありて世界驚愕の程度を倍加したる次第と被察候

▲由來表面大胆なるが如く見れて實は非常識なる事を爲すは韓人の特性に候曾て布哇に浮牧師なるものありポートマス媾和會議の折彼米大統領を動かして朝鮮の獨立を計らんとし孤身ワシントンに出掛て運動を試みたる事有之候彼の運動は何等効を奏せざりしも是によりて彼は慥かに愛國者たるの美名を贏得致候

▲次は三十九年九月の頃江原道の儒生某等は統監暗殺の目的を以て入城し伊藤公に暗殺狀を送付したる事有之候爲に統監邸は急に警戒を嚴にし一時上を下へと噪きたる事有之候其後儒生の研ぎたる刄は自然に收まり候而して彼等は愛國者の美名を贏得すして終り候次は ヘーグの密使なれども非は茲に說くを要せざることゝ存候

▲予や儒生や密使や皆口舌の徒に候而れども ス氏の暗殺者は慥に一命を賭して掛たる者と被存候如何に安き命とは云へ一命を賭することに中々の難事に候其難事を敢てしたるが世界の視聽を惹きし理由と被存候

▲ス氏暗殺に對する世界の反響は余の未だ知らざるところに候得共余の見を以てすればヘーグ事件以來漸く世界の人の忘れんとせる極東バルカンなる韓國問題が或意味に於て復活せすやと掛念被致候

▲物は見樣によりて如何樣にも相成可申候韓國問題の復活は我伊藤統監をして其朦朧政策を維持するに堪ざるに到らしむるやも知れずと被存候余は伊藤公が從來の朦朧主義より鮮明主義に移るの時機慥かに切迫したるを相信じ申候

▲ス氏の對韓意見は雄大にして亦明白なる者にて候氏が朦朧政策を厭たりしは事實に候東洋の政治家は餘りに悠長なりとは氏が不用意の折數次口より洩したるところに御座候

△世間一般はス氏を目するに單に日本贔負の好人物を以て致候而れども非は大なる誤に有之候今は說くを憚り候得共他日を以て明瞭と相成可申候

△雄志を抱きたるス氏は對韓問題最後の解決を見すして犧牲となり祭壇に登られ候氏今生の無念は余の苦察致すところに御座候余は此高貴なる犧牲をして眞の意味ある犧牲たらしめられんことを伊藤統監に向て要望致候

葬禮雜觀

長風生

△本月廿九日南山本願寺別院に於て片淵君の葬儀を營むことゝなり、余は其世話係の一人として參列したるものは雜然たる有志者の一團で、君の友友系統が正しく多方面で又浪人生活を爲したるかを代表せられてあつた。

△君其東亞開進教育會に盡くしたる處多かりしを以て、會長趙重應君は吊文を寄せ又會員三千を參列せしむべしとの申込があつた、會葬者は斯く冷笑した、恐らく其一割も來ることあるまい、三千の會員來會とあれば是眞に暴徒襲來の威があるとも。

△此日は天氣荒敗雲行急穀砂飛揚し漢城市一面暗かも塵砂風雨の間に埋沒するの光景であつた、如何に低氣壓の襲來が壯大なる本願寺をして鳴動せしめて居る、第一點鐘鳴る、讀經始らんとして一群の韓人先づ旗を押し立てゝ山門に迫り來た、續いて幾團の韓人は疾走して詰めかけ押しかけ、大旗を揚らし笛を吹き、踊兒舞兒は狂氣の如く舞踏しつゝ山門内に進入した、其時の光景は實に一大奇觀で又一大壯觀である、讀經どころか會葬者も皆總立となつて此光景に魅殺せられ、興殺せられ、威殺せられた。

△或者は曰く眞に三千の暴徒襲來の光景とも謂ふべしである、或者は曰く恐らく斯る群集の崇拜によりて葬られしもの錦浦先生一人である、或者は曰く朝鮮人と云ふ人間は當てにはならぬが又當てにならぬ一大氣力も持つて居る。

△讀經は始まる、會葬者も見物より座に就いた、然し乍ら光景は鐘鼓舞踏群集の波瀾中にありて異樣の光景と了し去つた、伊東祐侃君が朋友を代表して吊辭を朗讀し、檜崎君が趙會長の吊文を代讀した、韓人の代表者は謹んで燒香をなし、一同は三十分にして解散することになつた、折しも暴風襲到し、群集と見物人は本願寺の廣庭に充滿して居る、風が吹く、砂が飛ぶ、雷鳴り電光閃き、大雨沛然として降り、茲に群集の解散を命じた。

△韓人は其れでも承知しない、彼等は寺院内に侵入して狂亂の如く舞踏しつゝある。

△或者曰く奇怪なる群集である、恐らく彼等は統監府の脚下に於て片淵君を借りて示威運動をやる積りであらう、傍に大垣君が居つたから余は曰く君が死んだなら斯く韓人が來會するであらうと。

△余は片淵君の喪主の一人として此奇異なる葬儀を擧げたりしを自ら了解するを得た韓人は文學の民である。

紐育電報

▲ス氏暗殺者の公判

スチーブンス氏を暗殺したる韓國人は公式に起訴せられ辯護士は韓國人の所爲を以て愛國的狂亂に基ける無知蒙的犯罪なりと說きて辯護せり(二十九日發)

東京電報

▲祭粢料御下賜

故岩崎彌之助男爵の葬儀に盡瘁せし功勞に依り祭粢料として金五百圓を下賜相成りたり

▲間嶋派出所官制

統監府は別に間島派出所官制を制定し公の機關として事務の敏活を圖り韓民保護の實を擧ぐる筈なり(以上二十九日發)

各地電報

▲賊三十と戰ふ

日韓巡査各二名暴徒と交戰し之れを擊退し其約三十名の暴徒と交戰し之れを擊退し其の二名を屠りに四名を殘す鹵獲品銃二挺なり(廿九日海州發)

▲暴徒郡邑を襲ふ

暴徒約二十名山淸郡邑に來襲し巡査駐在所及び郡主事宅を燒毀せりとの報あり當地警察署より警部巡査出張す(廿八日晋州發)

▲右續報

本月廿七日夜賊八名山淸郡大源寺方面より德山附近に來り尙眞の幾部は太源寺附近に在り昨廿八日午後一時丹城郡方骨面に賊約八十名侵入し喫食後郡邑を襲擊せんと揚言しつゝありとの情報あり當地守備隊は下士以下七名德山に上等兵以下六名方骨面に上等兵以下三名三個に向ひ包圍攻擊する筈なり(廿九日晋州發)

▲首魁を生擒す

昨二十九日巡査隊は今村中尉指揮の下に守備隊と連合し光州郡所旨面に集團中なりし暴徒を攻擊し其の五名を殘し首魁金聿を生擒す(三十日光州發)

記者曰ク金聿は全羅南道暴徒の總首魁なり

雜報

●長谷川大將の御見舞

長谷川大將は副官を隨へ廿八日午後〇時四十五分馬車にて大漢門より參內あり承寧府に至りて同總管に面會し承れば陛下には御病氣の由日下御容体如何あらんと陳ぜられたるに總管は御快方に赴きつゝありと答へたるに御見舞の爲めに參上したるに付宜敷御執奏ありたしと名刺を交へて直に退出せられたり

●救恤金下賜說

太皇帝には今回の地方騷擾事件に於ける被害者に對し救恤金を下賜せらるゝと云ふ

●殖產奬勵會の總會

大韓殖產奬勵會にては去る廿七日中部校洞同會事務所に於て總會を開きしが同館の役員は會長島田歸委員長谷川龜太郎、同磯谷喜三郎の三氏にて幹事は久納氏兼任なり

●田中男爵の事業

別項永登浦監獄署に四人を移送するに付

●釜山釋菜開始祝賀會

釜山管理局にては京畿線を釜山まで延長する爲め一昨年來工事中なりしが今回全部落成したり尙は書記長は久納重吉氏なり

●釜山商業會議所役員

釜山商業會議所に於ては役員の改選を行ひたる左の人々當撰せり

●釜山商品陳列館役員

長島田歸委員長谷川龜太郎、同磯谷喜三郎の三氏にて幹事は久納氏兼任なり

●田中男爵の事業

別項永登浦監獄署に四人を移送するに付

●釜山商品陳列館役員

長島田歸委員長谷川龜太郎、同磯谷喜三郎

●釜山釋菜開始祝賀會

釜山商業會議所役員

●釜山商品陳列館役員

長島田歸委員長谷川龜太郎、同磯谷喜三郎

●釜山釋菜開始祝賀會

釜山商業會議所役員

●安城邑の暴徒

二十二日夜半六名の暴徒韓銃を携へ安城邑東里に襲來し金某の家に入り雇人池元伯を捕へ主人及隣家金某の所在を問ふたるも之に答へざるを以て之を銃殺し何物をも得ず逃走せり

●商業會議所豫算可決

當日本人商業會議所四十一年度の總豫算は一萬三千五百三十七圓四十錢なるが前年度より七千四百四十八圓三十五錢の減少を來したり而して右は何れも議員間に於て些の訂正もなく可決したるを以て戶叶書記長は昨日書類を携へ認可方禀請の爲め理事廳に出頭せり

●麥酒界の大暗鬪

從來韓國に於ける麥酒界は殆んど大日本麥酒會社の獨占に委し殊に京、地方の如きは線屋(京城宅(仁川)等熱心なる特約店を有せしを以て其勢頗る旺盛にて曾記の如く京仁間に於ける斯品の消費額の八分强は大日本麥酒會社の製品なりしが、昨年來本邦に於て雄飛せるキリンビールも夙に韓國に志ありて虎視眈々として機の到來するを待つの風情なりしが偶ゝ麥酒會社今回の値上げ(既報)に遭逢するや明治屋は機逸すべからずとなし過般來激烈なる運動を試みたる結果既に仁川に於ては一鶴の本店たる本莊を味方に引入れ尙ほ某店を買收すべく交渉も略纏りたる模樣なり而して一方麥酒會社側にても之れと對抗すべく目下畵策中なるやに聞けり兎に角本年の斯界は激烈なる競爭を見るに至らん

●大阪商船の賃金値下

鐵道乘車賃値下に對抗して大坂仁川間の船賃を値下したることは既報せし所なるが同社にては京城坂神間の航路船乘客に對して便宜を計る爲京城より大坂まで八圓五十錢となし此中に京仁の滊車賃も含み居るものなりと云ふ

●模範的勸工場の設立

昨今京城居留民團役所と日本人商業會議所との間に於て韓國に於ける模範的勸工場を設立せんとの計劃を立て目下夫れに就て審議中なり

●京城夜學校の卒業式

京城教育會附屬京城夜學校に於ては一昨日午後四時より日の出町小學校に於て卒業證書授與式を擧行したり同會評議員熊谷賀太郎氏は正副會長不在に付會長に代りて卒業生に對し一々證書を授與されたり席上善隣商業學校菜園の發應ありたり因に同夜學校は今回善隣商業學校に於て引繼ぐことゝなりたり

●四人の移送

永登浦に建設せられたる京城理事廳監獄署は四月一日より事務を開始せらるゝことは既報せしが右に付き南部警察署柄內監獄に在獄中の四人六十餘名の中五十名は昨日看守長看守付添の上永登浦新築監獄署へ移送されたり尙ほ殘留の四人十餘名は四月十五日迄に放免せらるべきものなりと云ふ

●金山書記官追吊會

既報の如く故統監府書記官金山尙志氏の追吊會は一昨日午前十時より南山本願寺別院に於て執行せられたり參列の人々は曾禰副統監、石塚總務長官代理其他統監府員熊谷民長及び民間三四の人々等數百名にて筑前琵琶の名手鈴木筑風氏は故金山書記官遺愛の琵琶にて故書記官の作になる鶯營の夢を彈じ一座皆な涙を忍び故金山氏の往時を追想したるなど壯嚴なる追吊式なりし

●故片淵琢氏の葬儀

片淵琢氏の葬儀は一昨日京城本願寺別院にて午後二時より執行せられ日本人會葬者百餘名にして東亞開進教育會は從二品中秦熙會員三十餘名及び靈を慕ひて會葬したるが讀經に次ぎて左の吊辭あり

吊辭

片淵琢君本月二十一日漢城馬頭山大韓病院に於て逝去す君性磊落奇偉にして能く合せず不過にして終る誠に惜むべし君曾て東都に在りて青年七氣の振興を上る品川先生と志を同うし又學を副島先生の門に講じ得る處大なり數年前韓國に來りて教育文藝の爲めに盡くす所少からず南船北馬韓國の經綸に資するあり今や志半途にして去る嗚呼悲哉朋友等茲に君の遺族に代り其柩を擁し其靈を祭る希くば享けよ

明治四十一年三月二十九日

朋友を代表して 伊東祐侃

同

維歲戊申三月廿九日東亞開進教育會長從一品勳一等趙重應敬て片淵先生の靈に昭告す嗚呼先生素東洋有志の士を以て我韓國に遊ぶ力を韓日兩國社交の親密人文の發達に盡し乃ち本會の改良組織に丹誠す焉今や教育に實業に其他諸般の事業に於て先生の誠意の及ぶ所勃然として興隆するものあり本邦中外の會員幾十萬の衆き不適任其面目に之を呼ぶ者こそ迂闊千萬也務將に漸く擴張盛大の際に方り豈圖らんや先生と中途相失はんとは嗚呼哀い哉悼い哉然り而して本會の志士諸人既に益生の芳德高見に感化を受くるの深し益先生の遺志を追想し以て將來の隆盛を期し先生在世未展の高志に報ひんとす庶幾くは先生之を諒して尊靈を安せよ重應偶病に在り親ら先生を祭る能はず本會總務從二品申秦熙をして本會員若干を統率會葬せしむ

大韓歷隆二年三月 日

右の吊辭終り讀經となり一同燒香をなし式を終りたるが舞童は未だ已まず非常の盛大なるに御見舞の爲めに參上したるに付宜敷御執奏ありたしと名刺を交へて直に退出せられたり

●暴徒討伐情報(軍司令部着)

▲永同守備隊報告 討伐隊は三月二十五日午前十時三十分忠淸北道三公里(茂興場東南方約二里)に於て金東臣の卒ふる約六十の賊と遭遇し交戰二時間の後之を壓倒北道九九千洞方面に潰亂せしむ賊の死八傷五韓銃五雜囊三鹵獲す

▲銃器押收 江原道原州守備隊の斥候周里に於て暴徒首魁金致水の依賴に應じ匿せる單銃五火繩七劍一押收せり

▲水原守備隊報告 討伐隊は二十三日塡(水原南八里)の東北約雲村附近にて約十名の賊を西北方に潰亂せしめ其一を殘す

▲騎兵隊報告 騎兵討伐隊は二十一日龍潭(群山東十三里)にて賊二名を殘し同二十三日開花洞に於て賊一名を殘せり

●銃器押收

仁川監獄に收容中なる韓國人安東縣領事)同

△田清松(米國人)同

△大島鑑哉(陸軍歩兵中尉)浦尾旅館へ

△相良維章(同中尉)同

△本間業(同中尉)不知火旅館へ

△鈴本千代藏(同少尉)同

△野田國輔(同上)同

△カデス(米國人)同

△城數馬(京城控訴院長)巴城寺

△鈴木新之丞(同大尉)同

△野田國輔(同上)同

△カデス(米國人)同

△太田清松(米國人)同

△城數馬(京城控訴院長)巴城寺

△鈴木新之丞(同大尉)同

△野田國輔(同上)同

△カデス(米國人)同

△太田清松(米國人)同

△城數馬(京城控訴院長)巴城寺

△鈴木新之丞(同大尉)同

△野田國輔(同上)同

△カデス(米國人)同

△太田清松(米國人)同

△城數馬(京城控訴院長)巴城寺

△鈴木新之丞(同大尉)同

△野田國輔(同上)同

△カデス(米國人)同

△太田清松(米國人)同

△城數馬(京城控訴院長)巴城寺

●獄囚死亡

二十三日廣州駐在所より送致せる暴徒朴春植外三名に對し取調中なる韓國人安東縣領事)同

△鈴木新之丞(同大尉)同

△野田國輔(同上)同

△カデス(米國人)同

△太田清松(米國人)同

△城數馬(京城控訴院長)巴城寺

△鈴木新之丞(同大尉)同

△野田國輔(同上)同

△カデス(米國人)同

△太田清松(米國人)同

△城數馬(京城控訴院長)巴城寺

●三浦理事官歸任

京釜沿線及び馬山、木浦、群山地方視察中なりし京城理事官三浦彌五郎氏は昨今日歸任の筈なりと

●信夫理事官上京

仁川信夫理事官は昨日民團債起債の件打合せの爲榎山民團助役と共に上京統監府に出頭して即日歸仁せり

●宮川牧師一行の出發

集會傳道として來京中なりし日本基督教組合會長宮川經輝渡瀨牧師の一行は既報の如く昨日午後八時五十分南大門發にて歸朝の途に就かれたり同驛には基督教會員及び其他の知己有志者等多數見送れり

●秋吉會頭の出發

京城日本人商業會議所會頭秋吉富太郎氏は關西地方遊歷の爲め約三週間の豫定を以て昨日南大門發一番列車に搭じ日本に赴きたり

●辭令

(三月廿七日附)

元山理事廳在勤 中西楠吉

任統監府技手(五級俸下賜)

●近事片々

▲排日熱益々熾となり八鬼に漲らんとす其勢力却て暴徒以上也斷すべきや時は來れり

▲韓民をして新迄橫暴を逞うせしむる原因は所謂愼柔策に附上れる也是韓人の特色

▲排日熱の急激に火の手の揚りし近因は夥多の日人官吏任命其一ならむ聲戒を要す

▲現時の統監政治を續行するに於ては八道の民草皆排日黨となり暴徒たるに至らむ

▲年々歲々巨資を投じて排日黨を起さしめ日人を輕侮せしむ愚之に及ぶ者なし可歎

▲如斯事實の眼前に橫はる決して等閑に附し去る勿れ我帝國臣民たる者默す可らず

▲拓植會社の總裁は字佐川中將の呼聲高し或は適任ならむも伊公との關係を氣遣ふ

▲統監政治の支配下に活動せんとせば統監政治の革新を要す不然者其豫期に違はむ

▲宋秉畯嘖亦拓植副總裁の候補となる甚だ不適任其面目に之を呼ぶ者こそ迂闊千萬也

▲野田平末路の爲相當の位置を得さすならは元の商賣會社の通譯位が恰當ならむ乎

▲伊公その關係果面に何程あるか知らぬが全体大臣だの副總裁だのとは間違て居る

▲太皇陛下病魔の襲はるゝ所となり副統監伊公に打電し急に佐藤博士急行來らんと

▲九重雲深く知る由なきも稍重態と洩れ承る讓位以來痛く鰥念を煩はされし結果乎

▲斯く御氣色に惱まされては日本觀光の御勸も當分六ヶ敷からむ速に御回復を祈る

▲西園寺內閣一大臣補塡に就ては伊公井侯の內意は得たるも桂侯をば美事出拔けり

▲二大臣補塡して西園寺內閣軍容を闘へ公然前內閣派に當らむとの氣勢を發揚せり

▲西園寺內閣成敗總選擧にあり原內相の鉞意奮闘之が爲也政友會過半數を得るや否

▲獨逸議會無禮は新聞記者のボイコットとなり宰相の重要演說之が爲半に中止せり

▲茲に至て新聞記者の勢力も亦大なり無禮なる議會や官憲には此制裁を加ふる要す

●荒井次官の歸任

慶支部次官荒井氏は昨夜南大門着列車にて歸任したり

●偶ゝ

●偶ゝ

●偶ゝ

●釜山驛開始祝賀會　釜山鎮は京釜線を釜山まで延長するに付き一昨年來工事中なりしが今回全部落成し來る四月一日より同驛開始せらるゝを以て釜山居留民團に於ては四月一日午前十時三十分釜山驛構内に於て盛大なる祝賀會を催す筈にて數日來準備中なれば當日は嘸かし盛況なるべし

●釜山商業會議所役員　釜山商業會議所に於ては役員の改撰を行ひたるに左の人々當選たり何れも重任にて久納重吉氏は會頭に追薦され太郎副會頭に五島萬吉氏調査委員に阪田一郎氏會計委員に石田信一郎氏審査委員に野口弘毅氏山本純一氏岩崎新平氏

談話　花の根ざし

（十一）　粟嶽庵主人

横澤老人と靜子とは、海上も恙なく神戸に上陸し、行途の急がるゝまゝに、宿屋にもつかず、直に三ノ宮の停車場より滊車に乘り、大武停車場で武豐線にのり替へ、其夕無事に着したのである、横澤老人は進藤母子に初對面であるため靜子によりて紹介され昔氣質の叮寧に挨拶するのである、靜子は二の挨拶する間も、もどかしく感じて次郎の病床を直に訪づれた、

横澤老人は進藤母子と挨拶がすむや、靜子に附添ふた理由や、靜子の病氣の一時重態であつたことを語るのである、

「妻君のご病氣も一時は隨分重くて、船で十二時間餘もかゝるゝ仁川から醫者を呼びましてなア、診察して貰つたのです、花崎さんは居ないし、どうしようと思つて婆さんとたゞ〳〵心配したのみで、夫れでも段々快くなつて、もうこれなら大丈夫だと喜んでると、彼の電報でしよう、どうして斯う不幸の續くものだらうと、妻君と、婆さんと、三人で顔見合して途方にくれたのです、それに妻君は病後でまだ衰弱して居るし、さりとて出發せぬわけにはゆかず、そこで私が付て來たわけでムいます」と急ぎ込んで語れば、重次は感慨に、

「躍て花崎から貴君の事は能く聞て居りましたが、眞に一方ならぬ御親切でかげながら、遙に御厚意を謝して居りました、また、この度は靜の身を御氣遣ひくださいまして遙る〳〵こゝまで御同導くだすつて、今更何ども彼ども御禮の申樣もムいません、私は花崎になり替て深くこれを申上ます、どうぞ此行末も彼等夫婦とは見捨なく……」

と尚も受線けんとする、横澤の氣にかゝるのは病人である、それを早く見はやと、

「して花崎さんの御樣子は、」

重次は直に引取て、

「一時は醫者も見放したが、一昨日より良ひ方に向て、もう大丈夫だとのことで、一寸安心になりました、」

「横澤さま、重次も申上ます通り、何と御禮を申てよいやらわかりませぬ、靜の手紙にも眞味の親も及ばぬ、ご親切の御介抱を受けたとのこと、近い所ならすぐにも出掛けて目に懸り、御禮を申たいと存じましたが、何を申すも外國のことで只思ふばかりで、はからずもこの目に懸ることができまして、眞に難有ひことでムります、花崎も始終さう申て居りました、靜子は何にも心配なことはない、貴君方御夫婦が眞の親よりも可愛がつてくださるから、」

と尚も受線けんとする、横澤の氣にかゝるのは病人である、それを早く見はやと、

「して花崎さんの御樣子は、」

重次は直に引取て、

「一時は醫者も見放したが、一昨日より良ひ方に向て、もう大丈夫だとのことで、一

二十六日夕刻暴風雨警報傳り天候何となく穩かならざりしも夜に入りて二回の驟雨あるも格別の大降に至らずして止み翌朝となるや西南の風吹き荒み雲脚飛ぶが如く愈よ低氣壓の襲來近きしを示すが如かりしも時々小雨降るかと思へば又た日光を漏らすなど變幻極りなかりしかど天候は刻一刻に險惡を現はし正午頃に至るや風は益々強くなり砂塵を吹き上る狀の凄ま敷く眼を開るを得ず黄塵の交りの砂塵は目といはず口鼻といはず飛び込み行人の困難一方ならざりしが午後二時過ぎに至り大粒の雨點ゝと降り出るや驟雨油然として甚く雷さへ鳴はためき電光凄じく輝きて愈よ暴風となり瓦を飛ばし窓屋根を吹きめくる樣の物凄さなんどいふばかりなく一時は殆んど行人の跡を絶つに至り斯くて漸く夜に入りて風も小止みとなり雨も九時頃には全く歇み昨朝に至りては拭ふが如き快晴となり名殘の西風吹頻るのみなりし此暴風の爲め屋根瓦及び屋根葺を吹きめくられし家屋の損害及其他土塀の崩壊多數なりし就中理事廳の旗竿は此暴風の爲め吹倒され爲めに電話線三十條を切斷し漸く電燈の幹線二條の爲め支へられたる爲め本町一丁目の道路に倒るゝに至らざりしより怪我人を出さゞりしは幸ひなりし此他龍山方面にも多少の損害を蒙むりたるもの少からざりし今回の如き激烈なる暴風は京城には稀に見る所なりと云ふ

●京城南部の風害　一昨二十九日の颶風は別項記載の如く當地には稀に見る所にして其の時間は僅少なりしも被害は甚だ多く本町通りにて五十八銀行の横向ひに建築中なりし野田商科醫の建物は棟上げを爲せしまゝのものなりしが吹き倒されて用材の大部分は廢物となり新町稻荷社境内の松樹十有六本中間より折れて飛び同所巡査派出所前に架設せる電燈線並に電話線切斷し其他屋根葺物の吹き散らされたるもの瓦塀の吹き倒されたるもの屈指に遑あらず本社にても數枚のガラス戸を毀損したり

●銅峴管内の風害　一昨二十九日暴風のため同管内に於ける罹災害件數左の如し

一、官有山林樹木覆倒（松樹百五十本此見積額二百二十五圓）

一、草家屋根破損（韓家十四軒此の見積額五圓）

一、額四三圓一倒破（一ヶ所此の見積額五圓）

一、韓家裏門倒破（一ヶ所此の見積額五圓）

其他草家屋根小破損七十軒所

●仁川の暴風被害　一昨日は又々近來に稀なる暴風なりしが仁川港にて船舶の損害を受けたるものは比較的甚だ多く韓船大破三艘損害積荷共九百圓同小破四五艘、家屋小破四五十軒なりと尚花町一丁目四番地關屋發次郎（三）は同日午後五時頃中村金太郎所有の帆船が流失せんとするを繫留せんとして大波に漂へる本船

●一昨日の暴風雨

●韓國に於る浪人の標本　浪人といへば尾羽打ち枯らして人の情を請ふものゝやうに思はるゝが韓國三界に來て浪人たるほどの者は是れと大に趣きを異にして身を美服を鎧り口に美酒佳肴を嘗め馬鹿が汗油で金を儲けるのは已樣達を養ふためなんど〻太平樂を唸る一種特別の社會を爲し居るものにして是れも其の一人たる高知市鐵砲町生れの藤島吉（三）といへるは去る一月十七日より明治町一丁目の金澤弦弛方に一ケ月二十五圓の約定にて下宿したるが座敷を稼いとの牛馬の飼料のやうな物は喰はれぬのと横着を吐かすものゝ宿料は延滯勝となり嚴重の督促を受けて漸つとのことで三十圓宛二回支拂ひたるものゝ來客の賄料や酒肴料にて百餘圓もあれば尚ほも嚴重に催促する內去る十六日金策に行くと出て去りしまゝ歸り來らず其後旭町一丁目の興信所に居ることが分り尋ね行つて如何に始末すべきかと問ふと何れ金は拵つてやるのだから謹んで待つて居れといひ取散らしてある藩閥や賣籍を片付けて呉れよといへば座敷は借つた間は自分の物だ餘計な世話を燒くな己れに相談なくして其の座敷を他に使用でもしたなれば承知はせぬと逆捻を喰はし金澤方にても大に持て餘し警察署へ說諭を願ひ出で遣がの浪人も桐原署長の大喝に怖れ入つて近々遵付けすることを誓つて引退つたり

●電車と人力車との衝突　去る二十八日午後十一時頃南大門通三丁目の本町入角にて本町一丁目の別府組の車夫渡邊源太郎が龍山の小田時孝を乘せて踏切を越へんとする一刹那土砂を運べる電車が突進し來りて源太郎の曳ける人力車と衝突し乘客は轉倒し人力車は心棒を曲めたるが幸に怪我人もなかりしことゝなりて電氣會社より人力車の損害賠償を償ふことゝなりて事濟みとなれり

●阿片を仰いて自殺す　南署樂善坊樂井洞五十二統三戶酒商金漢奎（三）は平素より勝の小さき男にて始終詰らぬ事に氣を揉む性質なるが去る二十八日は朝より氣分勝れずと言ひて何れへか遊びに出で夕刻歸り來りしが其の日に限りて餘り平素よと嗜まぬ酒を多量に飲み大分酩酊の樣子なるより女房は不審に思ひながらも別に氣に留めず早く酔の醒むるやうと內房の一室に寢かしめたるに却て目の醒むる模樣もなく彼是十一時過ぎになりたるより女房は內房に至り見しに這は如何に夫は顏色蒼白となりて五体堅く冷ゐ早や絲切れ居るに驚き慌て早速其の旨警察署に訴へ出でしかば警官醫師出張取調べ檢視を遂げし所正に阿片を仰ぎたるものに相違なく屍体は妻に引渡せり原因は近頃打續く不景氣に加へて或る事業に手を出して痛く失敗し爲めに家財を保に入れ其の上少からぬ負債を生じ所詮將來身を起すべき望なきより斯くは自殺を遂げしものなるべし

●好きな男に逢はねば歸らぬ　岡山縣御闕郡圓城村の者にて當地に來り居れる建部ツチの長女靜子（三）といへるが去る二十日無斷家出したるまゝ更らに消息なきよし母なるツチは夜を日に繼いで其の行衛を捜索中去る二十八日も例の如く心當りを尋ね盡くせど更らに手掛りもなきより南大門通の好さんが出來ましたよと女は三界に家なく內に在つては親に從ひ嫁しては夫に從ひ老ひては子に從ふが婦人の道なりと南大門通の好さんの言はれる通りになつて居たからね母さんの言はれる通りになつてしたが今では好さんの言はるゝことに從はねばなりませぬ憚りながら親の威光が何時までも通用すると思つちゃ間違ひますよと飛んだ女大學を振り廻はし是非好き嫌腕家なりと

●獄囚死亡　仁川監獄に收容中なる韓國人鄭盜犯十五ヶ年囚は昨日病死せり

△大島盛哉（陸軍歩兵中尉）浦尾旅館へ
△相良維章（同中尉）同
△星野金吾（陸軍少尉）巴城館へ
△鈴木千代藏（同少尉）原金旅館へ
△鈴木利之丞（同大尉）同
△野田國輔（同上）同
△アンチル（米國人）安東縣領事）同
△カデス（米國人）同
△太田清松（憲兵大尉）旭旗館へ
△本間巽（同中尉）不知火旅館へ
△鈴木千代藏（同少尉）原金旅館へ

●（一診療）●　前院長橋本三男氏後任として今般福岡醫科大學醫員たりし百合野寅松氏本日より診療に從事せらる

日韓病院

本院は最新治療法を旨とし梅毒、病、下疳は本院の獨特とす腰物、婦人病には特にビール氏の鬱血療法を施す

（患者に從ふて其の許しを受けねば歸らぬとだゝをこねるに引も持て餘し警察署へ連れ來りて說諭を求めたるが好さんと言はるゝ艶福男は東京府の者にて目下永樂町一丁目の木下方に寄留する元陸軍看護手高雄直次と言へる果報者にて女たらしに妙を得たるかゝへる果報者にて女たらしに妙を得たる

●紙入の紛失（在中の金は主人の物）　南大門外大東運輸會社內仁川井出出張員福田喜代二は去る廿九日大和町二丁目の横山正夫を伴ひ本町二丁目の江戸川に至り俱に飲酒し金七十三錢を支拂ひ午後五時に同家を去つて歸宅して見ると洋服の上衣の內囊に入れ置きしと思へる紙入が紛失し此の中には仁川本店が當地に於ける通關作の振出したる十七圓餘の小切手が入れありしとて南部警察署へ屆出たるがこれが果して事實とすれば迂濶千萬のことといふべし

●持つて居らぬ金は出されぬ　東京府の須基浩は朝發見し前筋に訴へ出でたるを以て早速檢視を遂げし所有品は手帳一冊と宿屋に金十圓を預け置きたるものゝみなりしと

●獄囚死亡　仁川監獄に收容中なる韓國人鄭盜犯十五ヶ年囚は昨日病死せり

○開店御披露○
○惣菜御料理○
○べんとう○
○茶めし○
其外御好に應じ仕出し可仕候
方樣御待兼ねの御料理愈々相始め申候
通人々御來館御玩味奉願候
に付選京城南山町四丁目
魚芳丙
甲子
（電話四二八）

故片淵琢儀葬式の節は御會葬被下奉深謝候取紛中乍略儀紙を以て御禮申上候
三月三十日
友人　伊藤祐侃
同　菊地謙一
同　楢崎觀一
其他友人一同

日本官煙
不二ロングライフ
韓國へ初めて輸入賣出し申候
東亞煙草株式會社

開店廣告
筑豐石炭
鍛冶屋用石炭
精米以上卸小賣
京城精米所特約販賣店
貿易石炭精米
商平山洋行
京城本町一丁目（電話四一番）

一各種石炭大販賣
大の浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭
ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候
三池粉炭
鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應し可申候
當社一手販賣炭左之通り
三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚、本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦、芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等
三井物產合名會社
京城出張所（電話二十六番）
仁川出張所（電話六十三番）

京城明治町一丁目（漢城病院向筋入）
高等下病
日の出館
弊館は設備完全にして最も閑靜なり
弊館は可嚀懇切を以て特色とす
西洋御料理宴會
日本人倶樂部
京城南山町三丁目電話（一二三番）

本店 東京市日本橋區兜町
内地支店 大阪、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市
及出張所 下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京淀橋町
韓國支店 仁川、釜山、元山、鎮南浦、木浦、群山、鏡城
及出張所 平壤、大邱、開城、城津、成興、馬山、鏡城
滿國出張所 安東縣

株式會社 第一銀行京城支店

營業部 電話 一一番
同 直通 一一番
營業部 三三番
國庫部 六一一番
用度係 六一二番
分拆所 六一二番
電話番號
總支配人 市原盛宏
副支配人 三島太郎
國庫部長 竹山純平
調査部長 木村雄次
副支配人 營業部長

開店御披露

本月二十三日ヨリ三好町歌舞伎座前ニ於テ開業仕候間續々御光來被下度奉願候

京城三好町 筑紫亭

▲電車割引券發賣
▲電車割引券
▲龍山線區域改正
▲電車發着時間改正

四日一日より鐘路本社及龍山電車停車場にて發賣す
六十枚綴一冊に付金二圓八十五錢何れの區域にも使用し得べし
四月一日以後は南大門驛前を境界點とし同點より鐘路及龍山迄を各一區域とす
四月一日以降は夏期時間表に依り電車を運轉す

米韓電氣會社

梅毒にて苦む御方は急ぎ一劑試み給へ速に全治す藥効なき時は返金ず

しつけつがん よこね、かんそう、ほねうづき、ようばい そう、りん病、子宮病、じしつ、一切、がんかさ、るいれき、たいどく等に特効あり 價一圓

百人百治 濕血丸

右藥は米國醫科大學教授博士(マンキリン氏)の明治二十五年十月新發明せられし良劑にして輕き病は半廻り重き病は一二週用ゆれば速に全治す此藥は我日本にありふれたる梅毒藥とは異なり服用して決して口中いたゆ飲食物に禁止なし就業勤務に妨害なし身体衰弱せず頭髮ぬけず養生中他人は勿論家内のものにも知れる世話なく全治する事保證す但一週間分金一圓

▲賣捌き御望の方は御來車あれ

調劑本店 大阪 松本快活堂
韓國一手販賣 京城新町 松本儀祐

▲到る處の賣藥店にて販賣仕候

木炭着荷

京城南大門通三丁目 英兄弟商會 電話九四八番

一層業務を擴張し敏腕の事務員數名を増聘し迅速且つ懇切に左の事務を取扱ふ

民刑訴訟の鑑定及諸般代書事務
一 貸金賣掛金等に關する債權取立事務
鑛山及土地の測量製圖並に出願手續
一 會社組合銀行等の顧問
明治法律學校出身

京城本町一丁目 增本好三郎事務所 (電話取次六二四番)

珍店江戸子流 東京下駄

仁川宮町二丁目 成田屋 電話一八二

會席御料理並に仕出し

京城本町一丁目 曙亭

拾有八年の實驗 最新學術の應用

京城南山町三丁目 齒科醫 勳六等 楢崎東陽 (日本人倶樂部向)

和洋御料理並に かきかまめし

外に洋食、すし 一皿ニ付金十五錢

京城本町五丁目 釘商 目丁入 あづまや

臨時移轉廣告

今般改築中當分本町四丁目淵上商店内及ひ第一銀行横手の二ケ所に於て臨時營業仕候間不相變御引立の程伏て奉懇願候

以上

京城本町四丁目 内外藥品 有名賣藥 卸小賣商 近藤貴生堂藥房 (電話一三八番)

節句用 雛市松人形 其の他種々

荷着大勉強

京城本町四丁目 ㊀ 河村百福號 電話七四六番

同じ金を出しながら一世紀後れの洋服を着給ふ勿れ

丹波丸便を以て輸着相成候處品質精良にして拵合は本年の最新流行普通東洋向と稱する内地廻りの雜物の比にあらず然るに直輸入の故を以て内地消費税を免れ案外の低價に引取り候を幸ひ此際一層廉價に調製可仕候間續々御用向奉願候

京城南大門通三丁目 諸官衙御用達 洋服商 丁子屋支店 電話二十三番

英京龍動より直輸入春洋服地種々右弊店特約品今般

直輸入極上等無絡 英子ール新荷着 京城本町二丁目 丁子屋分店 電話二百二十番

大勉強廣告

なき蒲燒○會席御料理
うなぎん○親子ぎんぶり

本町座前大和湯向 きく紋 電話九百五十四番

極材木、竹類、鰊灰

座敷廻り諸材料特に注意取揃あり

右本年は多額輸入可仕特別廉價販賣仕候間多少に不拘御用命願上候

㊀ 小森材木部 京城旭町一丁目 電話七四四番 本宅四〇五番

各種銘茶販賣所

專業 富士の里茶舗 京城本町五丁目

會席御料理並ニ仕出し

京城本町九丁目 小松亭

移轉廣告

今般肩書の處に移轉仕り候也 京城永樂町一丁目 衛成病院筋向ふ入り上り詰

產婆 伊集院兼子

業務擴張廣告

本社今般業務を一層擴張致し内國物產は勿論外國諸物貨を直輸入し諸官廳、學校及び其他一般に至極廉價を以て迅速叮嚀確實を旨とし御用命に應可申候に付何卒一層御引立の程只管奉懇願候 敬白

京城南部銅峴三十三統六戶 宮内府用達 東洋合資會社 (電話一四四番)

開店御披露

會席御料理並ニ仕出し

右今般開店仕り大勉強且親切丁寧を旨と致候間賜々敷御光來の程奉願候

京城竹園町一丁目一番地 三遊樓

資本金三百万圓

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎮南浦 安東縣

株式會社 第五十八銀行京城支店 (電話十八ケ所五八番)

爲替取組先 臺北 南東 南山 東京 海陽 海山 灣道 蓬萊 蓬萊 內地 二五 二十七 七十三 七十五 十三 十七 ケ所 ケ所 ケ所 ケ所 ケ所 ケ所

清韓 西北 海陸 國國 蓬萊 蓬萊 遊蓬 一九 三十 十三 十二 ケ所 ケ所 ケ所 ケ所

營業科目

石版 活版 活字鑄造 銅版
木版 彫刻
コロタイプ版
寫眞版
謄寫版
簿
製本 裝釘

日韓印刷株式會社

今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ新築落成仕候間ノ通御來教被賜度御愛顧之段奉願上候也

本社 京城明治町三丁目 電話(三二三番)
東京出張所 東京橫濱區南鍋町一ノ十 電話新橋(三九六二番)

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓
積立及繰越金 八拾萬圓 (電話四二〇)

京城南大門通

株式會社 十八銀行京城支店

本店 長崎市築町
支店出張所 京城、仁川、龍山、木浦、釜山、鐵嶺、元山、群山、鎮南浦、大邱、蔚山、五島、壹岐

韓國 日本 大阪、熊本 佐世保、嚴原

其他日本韓國要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候 (利息日歩壹錢四厘)

長崎貯蓄銀行代理店 (十八銀行京城支店)

日本澤庵 味噌醬油製造

乾物荒物鑵詰 銘茶食料雜貨

京城本町五丁目 漬物問屋 大上商店 (電話二五一番)

原金旅館

本店 仁川理事廳通(電話三二番)
支店 京城南山町(電話一〇七番)

毎月廿日 名物 一割引 八名 二頭八饅頭 一名一口饅頭 一錢に四つ 京城本町六丁目 二八堂

御菓子製造大勉強

私儀去月來平壤及安東縣地方へ旅行中の處昨夜歸京致候今般朝鮮タイムス京城支社を辭し獨立事業を經營仕る積りに御座候間猶從前の通り御引立の程伏して奉願候

三月廿四日 奥原常槌

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告

貨物及船客取扱店 電話十番

仁川海岸通 郡回商會 電話三〇六番

京城南大門通 巴商店 電話三九番

●釜山長崎門司神戸行 山東丸 四月十二日 後三時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 釧路丸 第一オハツ號 四月十一日 後三時出
●大連、大沽、牛莊行 高砂丸 四月九日 後一時出 山東丸 三月卅一日 前十時出
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 四月廿三日 後一時出
●鎮南浦行 第一オハツ號 四月八日 後三時出
●釜山出帆、元山行 弘前丸 四月一日

御乘船ノ際ハ稅關渡船場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事

注意

日本法律學士 岩本英夫法律事務所 京城本町一丁目八十四番戶 (電話六四二番)
仁川港新町一丁目九十七番地 (電話五二七番)